

# 恵庭市立若草小学校

指定年度：H28～

児童数：591名

## 1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

○ 学校内の整理整頓、学習規律の徹底及びメンター研修の推進による中堅・若手教員の計画的な育成に課題があったことから、以下の取組を重点的に進めた。

### ① 学校力を向上させるための体制づくり

- 最優先課題として、学力と自尊感情の向上に向けて、中学校と連携し、9年間で「確かな学力」、「豊かな心」、「たくましい体」の育成を目指し、系統的・継続的な教育活動を推進した。
- 「目指す子ども像」を設定し、6つのプロジェクトチームと3つの教育課程委員会を組織化し、9年間で育成すべき資質・能力の系統をまとめるとともに、「若草小・柏陽中教師の授業スタンダード」や「若草小・柏陽中っ子学習スタイル」を設定し、小学校と中学校が一体となった教育活動を推進した。

### ② 人材育成を目指すメンター研修と実技研修

- 若手教員（メンター）と中堅教員、ベテラン教員（メンティー）で構成したメンター研修を実施し、日常の悩みや課題について情報交換を行った。メンティーにとっては、新たな情報を得る機会であり、メンターにとっては実践を振り返る機会となった。
- 実技研修においては、合唱指導や絵画指導、プログラミング等、中学校に講師を依頼したり、本校教諭が講師を担当したりしながら互いに学び合う研修を行った。
- 全ての児童にとって、分かりやすい授業を目指し、授業のねらいの焦点化や対話の場面の意図的な位置付けなど、校内研究の取組の充実を図った。



【研修の様子】

### ③ 学びを支える環境整備

- 児童の学びを支えるため、学習環境の整備を重点課題として取り組んだ。教室環境については、前面をできるだけ簡素化し、授業に集中できるようにした。また、学びにつながる掲示として、「若草 study（学習規律）」、「ノート掲示」、「食育コーナー」、「保健コーナー」、児童の意欲を引き出す掲示として、「児童会役員紹介」、「作品展示」、「委員会企画紹介」、「学年の取組紹介」を設けた。また、学習環境を快適にするために、清掃活動に力を入れ、児童、教職員、保護者が協働して行った。

## 2 取組の成果と課題（□：成果 ■：課題）

□NRTにおいて、国語科は全学年が全国平均を上回るなど、日常の授業改善や継続した朝読書の取組を成果に結び付けることができた。

□全国学力・学習状況調査の児童質問紙の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目において肯定的な回答が昨年度を上回るなど、日常の授業づくりや児童の意欲を引き出す環境整備等の工夫により、児童の自尊感情を高めることができた。

■児童の学力や学習意欲の向上に向け、個に応じた指導を工夫する必要がある。

国語		2020	2019	2018	2017	2016
2年	52.3	49.9	51.6	50.5	50.4	
3年	50	49.6	52.9	49.2	52.1	
4年	51.9	50.6	50.5	51.2	48.9	
5年	50.9	50.1	53.9	51.4	51.2	
6年	50	52.2	52.3	51.1	50	
全体	51	50.5	52.3	50.7	50.6	

算数		2020	2019	2018	2017	2016
2年	52.2	50	51.2	51	48.8	
3年	47.4	49.9	50.8	46.2	48.8	
4年	48.2	49.6	48.7	51	45	
5年	47.7	47	51.7	53.4	49.9	
6年	49.2	51.4	51.2	52.3	51.5	
全体	48.9	49.6	50.7	50.7	48.8	

【NRTの推移】

【アドバイザーから】 NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム理事長 新保 元康氏 「小中9年間の連携」を積極的かつ実質的に推進し、学力・自尊心ともに向上させ着実に成果を挙げている点が素晴らしいです。「学びを支える環境整備」は学校力の言わば土台です。この盤石の土台により授業に集中できる環境作りが進んでいる点にも学びたいです。この土台があれば、GIGAスクール構想も着実に進むことと楽しみにしています。